

北洋銀行ものづくりテクノフェア 2015 に出展

(社会連携推進センター)

7月23日(木)、アクセスサッポロを会場に開催された「北洋銀行ものづくりテクノフェア 2015」に出展しました。

本フェアは、北海道内のものづくり産業を振興するためのイベントで、今年で9回目となります。今年も経済産業省北海道経済産業局をはじめ、多くの公組織・企業団体の後援を得て開催されました。今年は、マッチングの拡大を図る企画として東京都大田区、静岡、愛知、東北からも出展があり、産学官金連携の強化・拡大、そしてものづくり人材の育成とその向上を目指しての開催となりました。出展は産業界を中心に過去最多の209社・団体となり、そのうち大学・高専からの出展は11件でした。また、展示技術に興味を持ち参加した来場者数も過去最大の約4,400人となりました。

本学は1回目から共催機関の1つとして出展参加しています。今年も本学「研究ユニット」、中でも医工連携、工農連携、冬季スポーツの各研究ユニットで取り組んでいる研究を詳細に展示・紹介しました。同会場に設置された商談スペースでは、終日多くの商談が展開され、本学にも3件の商談がありました。

また、同時開催の「道内企業と道内大学、高専、公設試の共同研究発掘フェア～産学

官金連携で『まち・ひと・しごと創生』の実現を～in 北洋銀行ものづくりテクノフェア」にも参加し、本学の技術シーズを紹介しました。

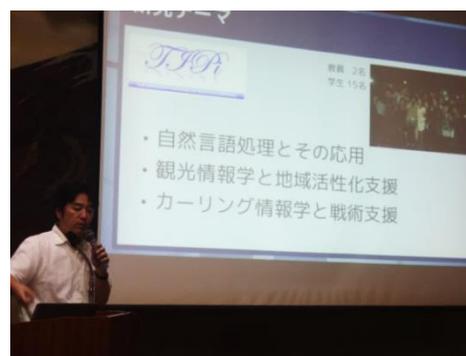
本学を含む道内の信用金庫・大学・高専・公設試が主催となって開催された本共同研究発掘フェアは、主に道内の企業向けに研究内容や研究室の設備・特徴等を分かりやすく紹介し、共同研究のきっかけをつくることを目的としています。今回は、比較的札幌圏に集中しているIT関連の企業をターゲットとし、「情報・通信」に分野を絞って実施しました。

本学からは、大学を取り巻く特徴的な環境やその中で展開される教育・研究について、情報システム工学科 榎井文人准教授が取り組む「自然言語処理とその応用」「カーリング情報学」「観光情報学」の3つの研究について紹介しました。どの研究テーマも地域への活用を強く意識したもので、新たな地域貢献の実現に向けて発展していくことが期待されています。

今回の展示を通じて、本学の長強について来場者に強くアピールすることができました。本フェアは研究の広報のみならず、大学の広報としても大きな成果を挙げる機会となりました。



北見工業大学ブース



研究を紹介する榎井准教授